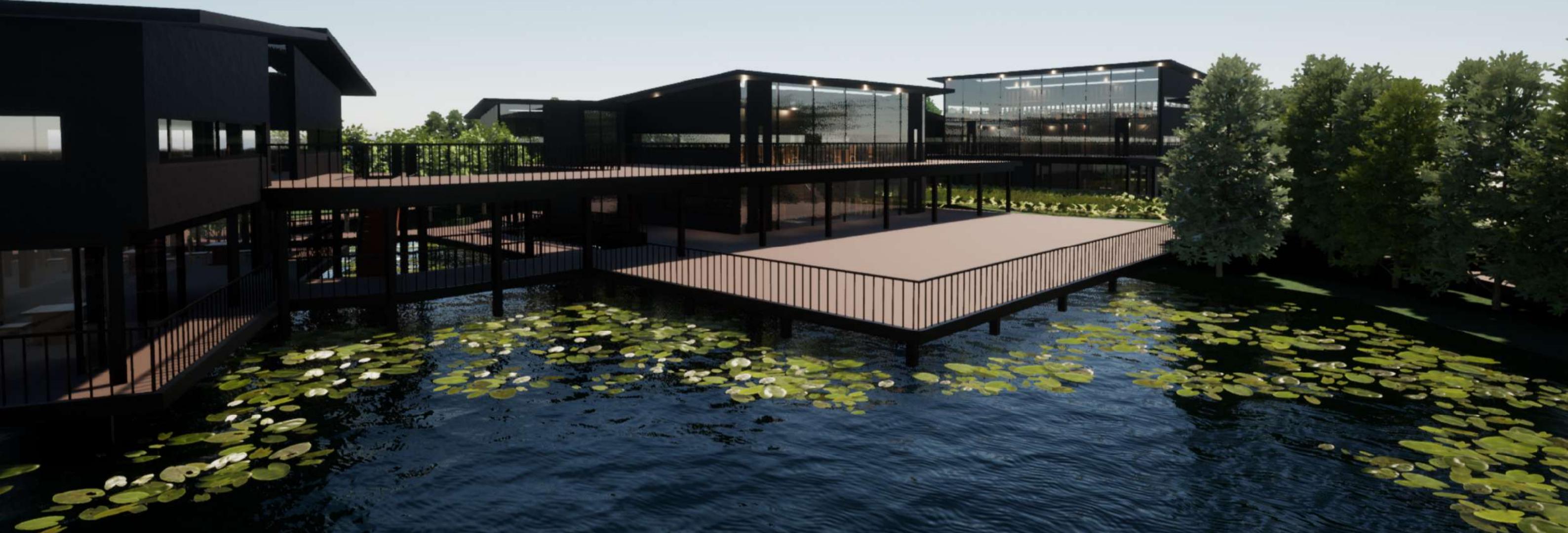


水生植物園に溶け込むコミュニティーセンター



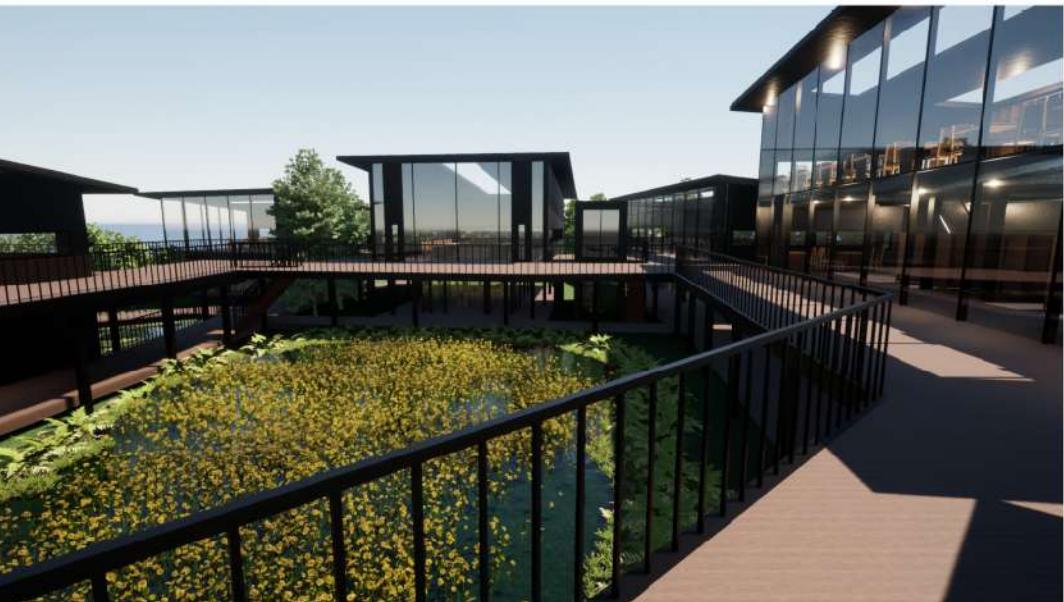
敷地概要

ここ水生植物園周辺はスイレンやキショウブなどの水生植物や、様々な鳥類などの自然に囲まれている。桜がとてもきれいに見える洗足池公園の敷地も良いが、春限定であり水生植物園からの方が洗足池、弁財天、洗足池公園など様々な景色を楽しめる。散歩コースで通る場所に位置しており人通りも多く、住宅街に囲まれているのでアクセスしやすい。



コンセプト

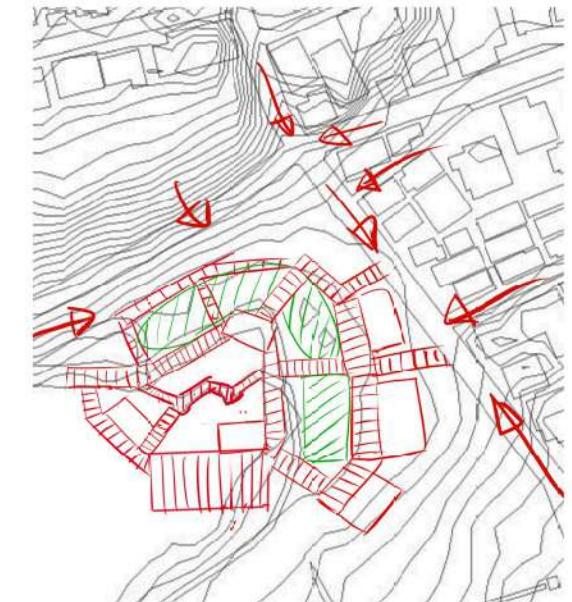
ここ水生植物園は洗足池、弁財天、洗足池公園など様々な風景を一望でき、自然や人々であふれる場所である。そんな水生植物園を最大限生かすために、もともとあった木道を拡張したり、それぞれの建物を分散させたり、1階部分を持ち上げ視線が通りやすくなり、透明性を確保することで様々な水生植物や花などの自然に溶け込めるよう更に人が集まるコミュニティーセンターになるのではないかと考えた。



導線計画

もともとあった木道を拡張し洗足池周辺の様々な方向からアクセスできるようにデザインした。木道を多くしたのでいつもと違った散歩コースを楽しむことができる。

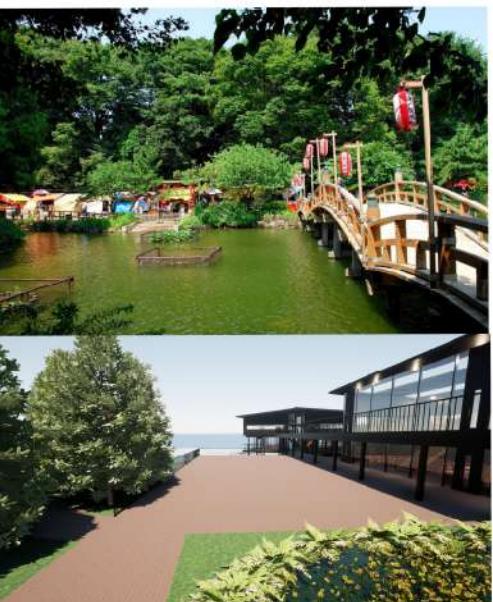
人が多く来るであろう住宅街の東側の方が洗足池への入り口が少なかったので多く設けた。



イベント、行事

洗足池は季節によって様々な祭りが行われており、とても賑わっている。そこで、カフェゾーンの前にイベントスペースを設けることでさらなる賑わいへと繋がるのではないかと考えた。

普段はカフェテラスとして使い、祭りのときは屋台を出したり催し物をする場として使う。





配置図



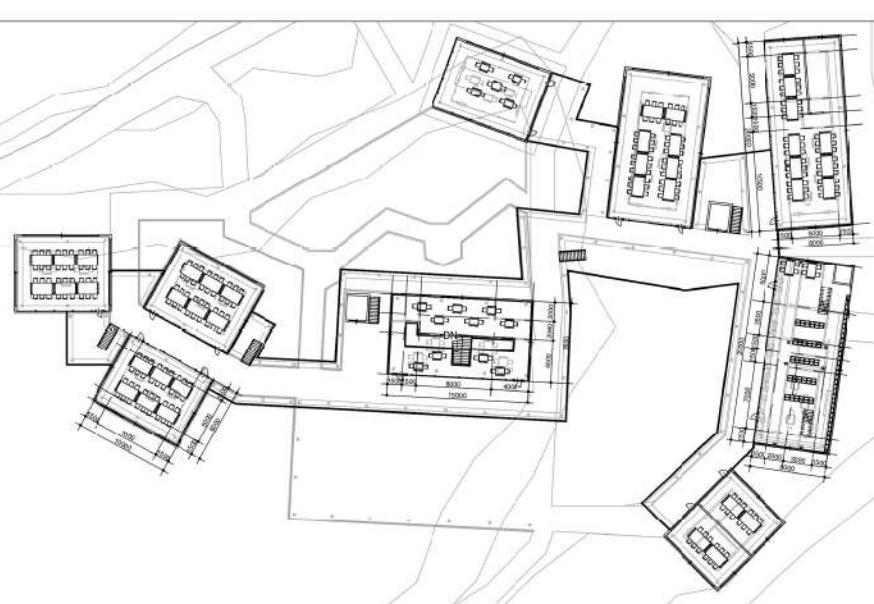
ダイアグラム



2階部分を持ち上げて柱で支え、1階部分をガラス張りにすることで透明性を確保し、水生植物園への視線が通りやすいようにした。

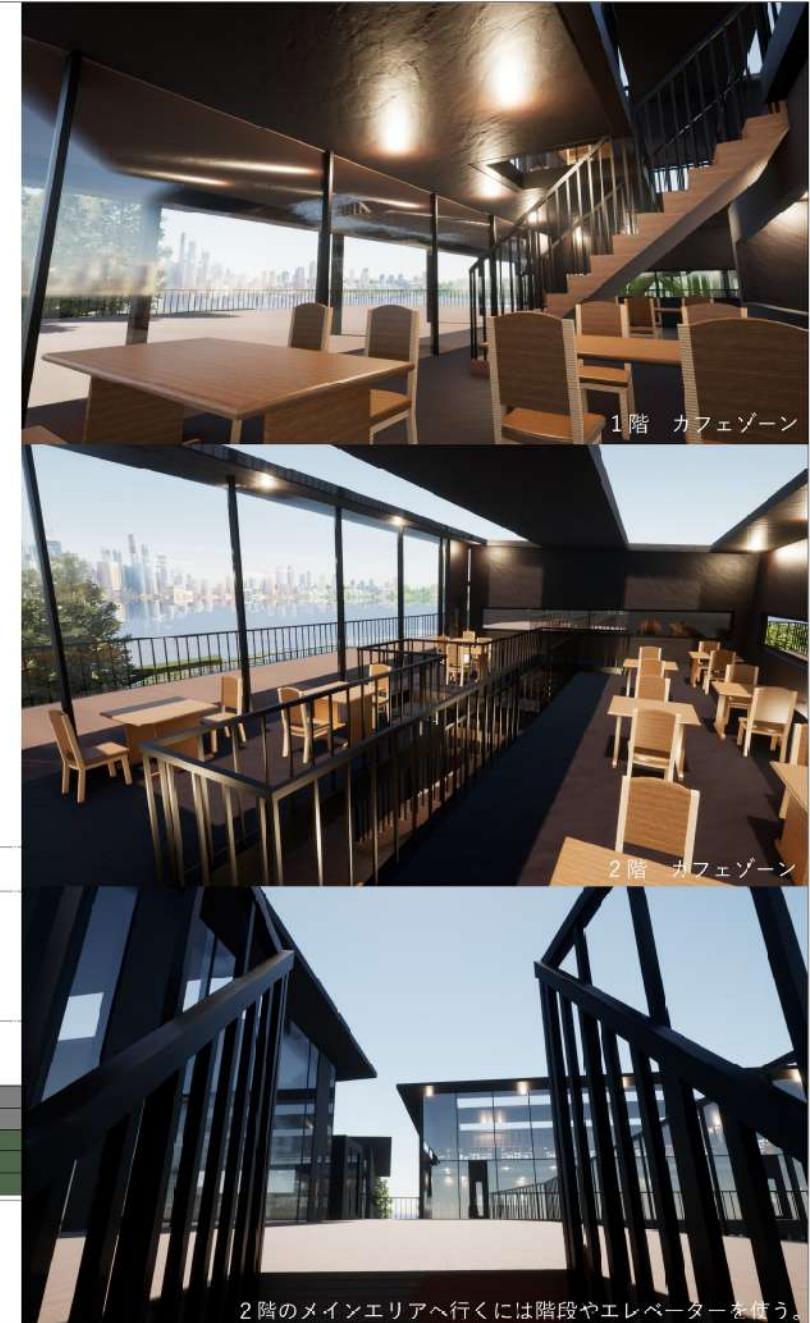


1/300 1階平面図



1/400 2階平面図

1階部分は基本ガラス張りの休憩室になっている。持ち上げられた2階部分は木道で繋げ、自由に行き来できるようにした。2階へ上がる際は階段やエレベーターを使う。区民工房ゾーンは大田区周辺ではガラス作りが盛んであり、若者にも人気があるのでガラス工房とした。また、水生植物園には数多くの鳥類が生息しており、バードウォッチングも人気なため双眼鏡などが使えたりできる小さな博物館を設けた。カフェゾーンは正面に大きなカフェテラスがあり、そこで休憩できる。図書ゾーンは唯一3階まであり、コミュニティーセンター全体がよく見えるようになっている。建物の配色は自然に溶け込むコミュニティーセンターをイメージしたため暗めのブラウンでシックな感じに仕立て上げた。

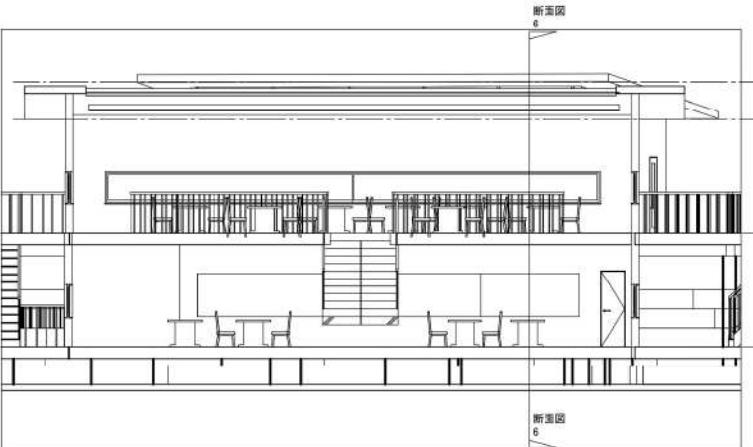


2階のメインエリアへ行くには階段やエレベーターを使う。

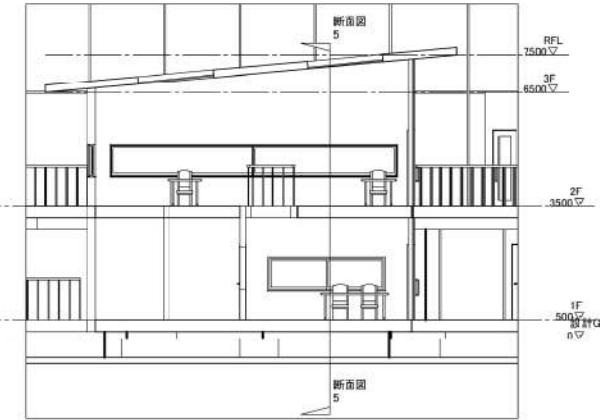


1/400 3階平面図

カフェゾーン

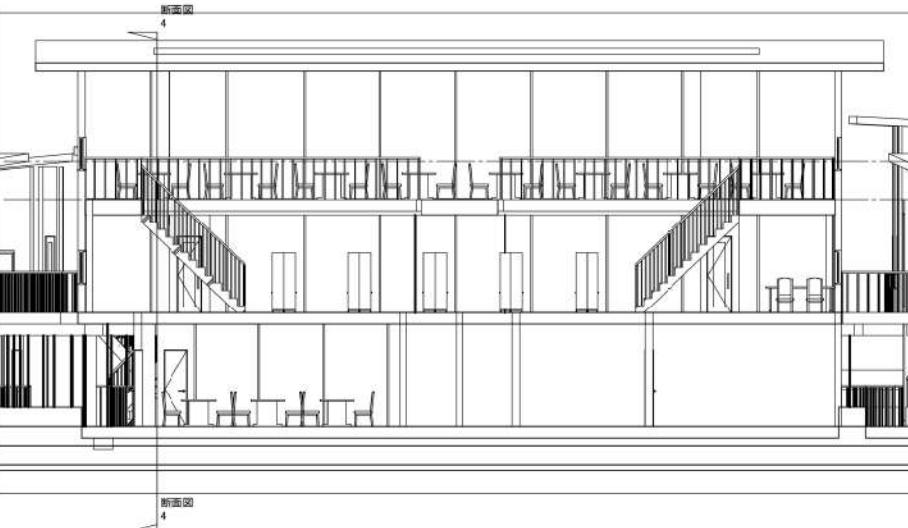


1/200 カフェゾーン南側断面図

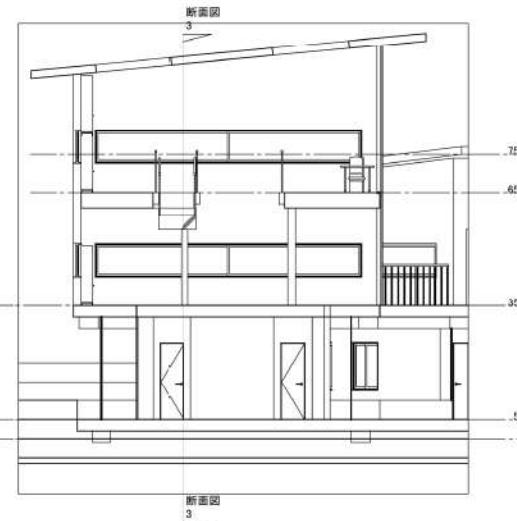


1/200 カフェゾーン西側断面図

図書ゾーン

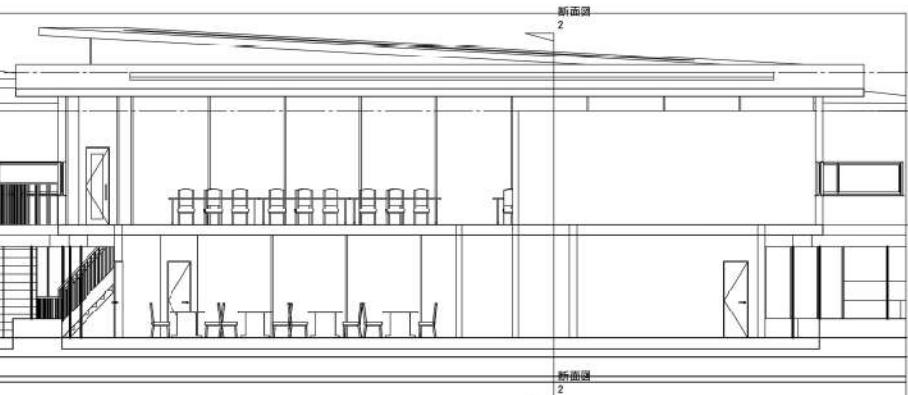


1/200 図書ゾーン西側断面図

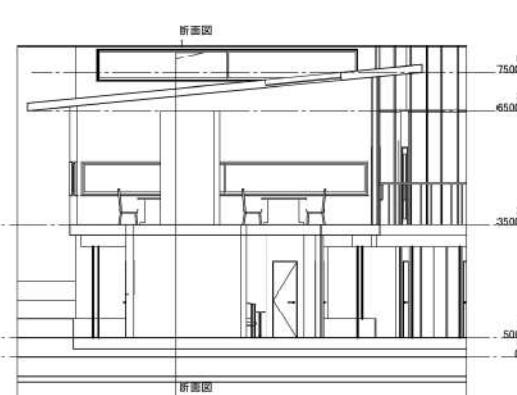


1/200 図書ゾーン北側断面図

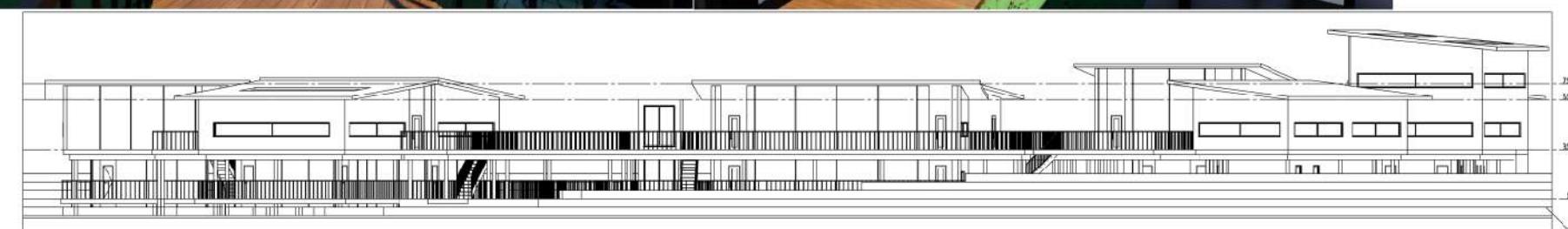
ガラス工房



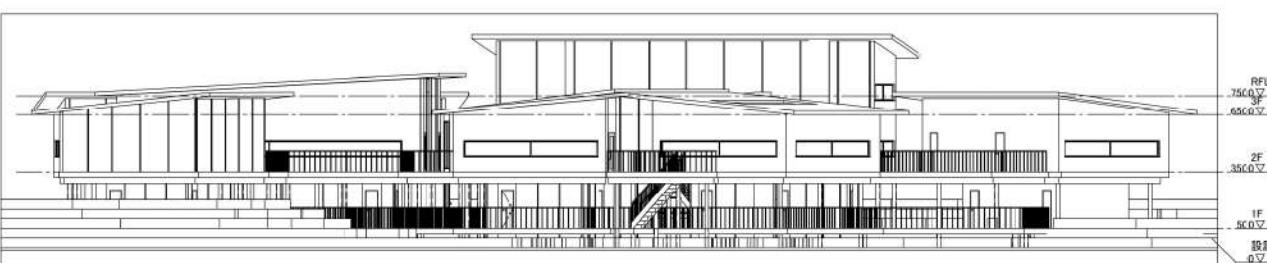
1/200 ガラス工房東側断面図



1/200 ガラス工房北側断面図



1/300 南側立面図



1/300 西側立面図